# 葛西城跡（葛飾区）

築城年代：鎌倉時代　、築城者：葛西氏

ここは葛飾区青砥駅北側の環状7号線/両サイドに木々が見える/この右手は葛西城址公園、左手は御殿山公園/このあたり一帯が葛西城跡

左手が御殿山公園、右手が葛西城址公園の表示

こちらは葛西城址公園

反対側の御殿山公園を見たところ

白い点線に囲まれたエリアが城域で、環状7号線が城域を貫いている/左手は中川/青砥駅は上/現地説明坂の写真より

航空写真（亀有上空より）　　葛西城の範囲

最初に御殿山公園を見てみよう

御殿山公園案内図
ベンチ
手洗所
至奥戸
環状第7号線(環7通り)
至亀有
葛飾区

狭いながらも工夫されている

前方が史跡広場らしい

「葛西城を偲ぶ」という石碑/説明が記されているが、文字に色でも入れてもらわないと反射して良く読めない

こちらにも説明坂がある

環状7号線を造成する際に発掘調査が行われたと云う/その両サイドは公園整備の際に発掘調査が行われたらしい

# 発掘された葛西城

葛西城は中川右岸に沿った標高1－2m前後の微高地上に占地し、その範囲は青戸8丁目宝持院付近から青戸7丁目慈恵医大青戸病院付近におよぶものと推定される。

葛西城址は昭和47年（1972）から環状7号線道路建設に伴い発掘調査が実施され、戦国時代をはじめとする陶磁器や漆器椀等の木製品を多量に出土した。葛西城から出土した多量の遺物は、今まで古文書や絵巻物でしか想像できなかった戦国時代像を研究する上で、欠くことのできない貴重な資料としてその名を全国的に知られている。

葛西城の立地する葛西地域は、中世において秩父平氏の流れを汲む葛西氏によって治められ、私領の一部は伊勢神宮に「葛西御厨」として寄進されている。葛西城の築城がいつ頃なされたかは古文書からも定かではないが、中世におけるこの辺一帯の政治情勢や出土した遺物から、15世紀中頃と推定される。15世紀末、伊豆、相模方面を舞台に台頭してきた後北条氏は北条早雲の子、北条氏綱によって関東進出が企てられ、天文7年（1538）葛西城は氏綱の手に陥落、下総に勢力を張る足利義明に対する構えとして整備されたことが知られる。その後、葛西城は16世紀末まで存続するが、天正18年（1590）小田原の役における後北条氏の滅亡と同じくして葛西城も落城し、中世城郭としての役目を終えるのである。

近世初頭、徳川家康の江戸開府後、葛西城跡地には青戸御殿が建てられる。青戸御殿は秀忠、家光の三代にわたって鷹狩等に利用された後、明暦3年（1657）頃取り壊されたといわれている。

また、葛西城は中世の城郭跡としても名を馳せているが、葛西城の下には今から1600年程前の古墳時代の住居跡や貝塚跡、多量の土器等が発見されており、当時のムラが埋没していることがわかっている。土器の中には遠く東海地方から運ばれてきたものがあり、当時の水上交通の活発さを偲わせている。

このように葛西城址は、弥生・古墳時代から中世・近世に至る各時代の貴重な資料を遺存している複合遺跡であり、葛飾区のみならず、東京低地の歴史を研究する上で欠くことのできない文化遺産である。

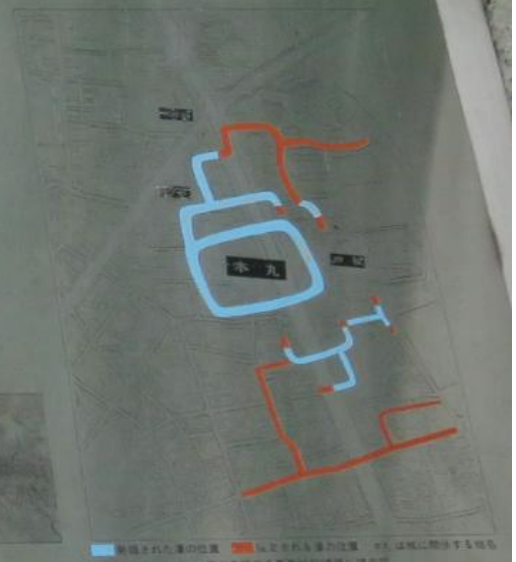
航空写真（亀有上空より）　葛西城の範囲

発掘調査風景

陶器の出土状況（中世）

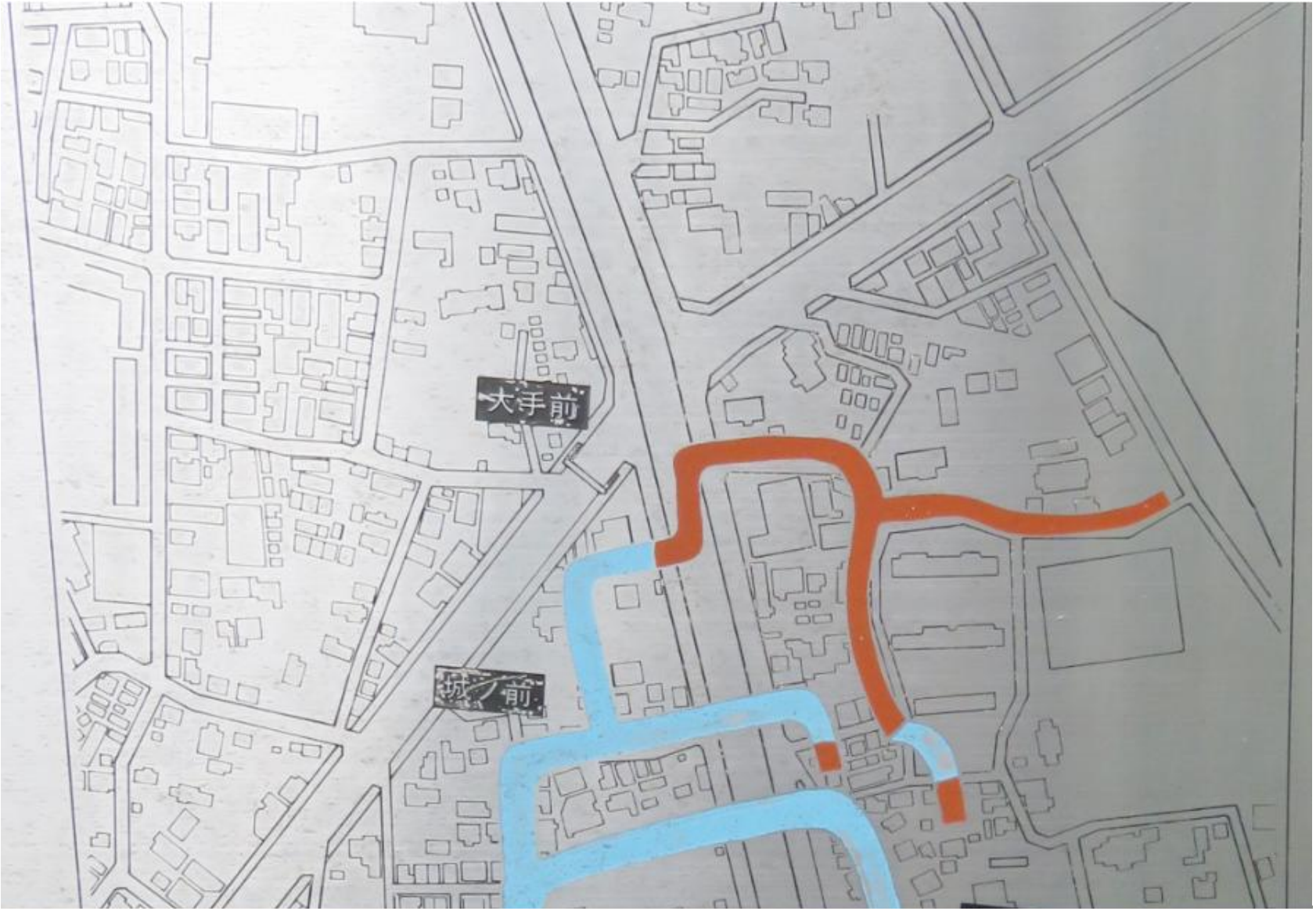
中国から輸入された磁器椀（中世）

土師器の出土状況（古墳時代）



発掘された場の位置　推定される城の位置　※は城に関係する現在地名
後北条時代の葛西城跡概略（想定図）

縄張図/水色は発掘された濠の位置/茶色は推定される濠の位置/両公園とも本丸のエリアにある



発掘された濠の位置　推定される濠の位置　本丸 は城に関係する地名

後北条時代の葛西城跡縄張り想定図

享徳の乱(1454年～1483年)による上杉勢と古河公方勢との対立の中で、山内上杉氏の最前線軍事拠点として15世紀中頃に築城され、大石石見守が入城したと云う

# 発掘された葛西城

葛西城は中川右岸に沿った標高１～２ｍ前後の微高地上に占地し、その範囲は青戸８丁目宝持院付近から青戸７丁目慈恵医大青戸病院付近におよぶものと推定される。

葛西城址は昭和４７年（１９７２）から環状７号線道路建設に伴い発掘調査が実施され、戦国時代をはじめとする陶磁器や漆器椀等の木製品を多量に出土した。葛西城から出土した多量の遺物は、今まで古文書や絵巻物でしか想像できなかった戦国時代像を研究する上で、欠くことのできない貴重な資料としてその名を全国的に知られている。

葛西城の立地する葛西地域は、中世において秩父平氏の流れを汲む葛西氏によって治められ、私領の一部は伊勢神宮に「葛西御厨」として寄進されている。葛西城の築城がいつ頃なされたかは古文書からも定かではないが、中世におけるこの辺一帯の政治情勢や出土した遺物から、15世紀中頃と推定される。15世紀末、伊豆、相模方面を舞台に台頭してきた後北条氏は北条早雲の子、北条氏綱によって関東進出が企てられ、天文７年（１５３８）葛西城は氏綱の手に陥落、下総に勢力を張る足利義明に対する構えとして整備されたことが知られる。その後、葛西城は16世紀末まで存続するが、天正18年（１５９０）小田原の役における後北条氏の滅亡と同じくして葛西城も落城し、中世城郭としての役目を終えるのである。

近世初頭、徳川家康の江戸開府後、葛西城跡地には青戸御殿が建てられる。青戸御殿は秀忠、家光の三代にわたって鷹狩等に利用された後、明暦３年（１６５７）頃取り壊されたといわれている。

また、葛西城は中世の城館跡として名を馳せているが、葛西城の下には今から１６００年程前の古墳時代の住居跡や井戸跡、多量の土器等が発見されており、当時のムラが埋没していることがわかっている。土器の中には遠く東海地方から運ばれてきたものがあり、当時の水上交通の活発さを窺わせている。

このように葛西城址は、弥生・古墳時代から中世・近世に至る各時代の貴重な資料を遺存している複合遺跡であり、葛飾区のみならず、東京低地の歴史を研究する上で欠くことのできない文化遺産である。

発掘調査風景

漆器の出土状況（中世）

中国から輸入された磁器碗（中世）

土師器の出土状況（古墳時代）

こちらにも説明坂が立っている

東京都指定史跡

# 葛西城跡

所在地　葛飾区青戸七丁目二一番外
指　定　平成十年三月十三日

葛西城は、中川の沖積微高地上に築かれた平城である。沖積地に存在しているため、地表で確認できる遺構は認められない。

築造者と築造の年代については不明であるが、天文七年（一五三八）二月には、北條氏綱によって葛西城が落城されたという記録（『快元僧都記』）があり、この後、葛西城は後北條氏の一支城となり、幾多の争乱の舞台となった。

後北條氏の滅亡後、葛西城は徳川氏の支配下に入り、葛西城の跡は、将軍の鷹狩の際の休憩・宿舎（青戸御殿）として利用されていた。

この葛西城が再び注目されるようになったのは、昭和四十年代後半のことである。昭和四十七年から発掘調査が行われ、その結果、主郭を区画している大規模な堀、溝、井戸跡等が検出され、陶磁器、木製品等が出土し、中世の城郭の存在が明らかにされた。

東京都内には、中世城館跡が多数存在している。沖積地に存在している城館跡は、地表にその痕跡をほとんど残さないことから内容が不明のものが多いが、葛西城の存在は、発掘調査によって明らかにされており、戦国の騒乱を語る上で欠かすことのできない城郭である。

平成十一年三月三十一日　建設

東京都教育委員会

これは「青砥史蹟復興之碑」

こちらは青砥藤綱城跡の碑/執権北条時頼や北条時宗などに仕えた鎌倉時代の武士の名前で、この地を有していたという伝承があるらしいが・・・

遺構としては何も無い場所であった

こちらは名前からして期待できる葛西城址公園

葛西城址公園案内図
広場
環状第7号線(環7通り)
葛飾区
タバコ・カン・ゴミ等
投げすて
自分のゴミは各自で持ち帰りましょう
西葛戸町会

葛西城址公園

だが何の変哲もない広場だった

これは葛西城址公園から東方向を見たところで、前方に土手が見える

その土手に上って南方向を見たところ/これは城域の東側を流れる中川/葛西城を守る天然の要害であると同時に、この水運を支配していたのが、葛西城を手中にした山内上杉氏であり、その後の北条氏であった/上流には関宿城があり、下流へ行くと東京湾である

振り返って西方向を見たところ/家康が秀吉の命による国替えで入る前の関東には、しっかりとした経済基盤が発達しており、中でも青戸(青砥)周辺は水陸交通の要所で政治・経済的な中心地であった/家康はそういったことを生かして、同じ近くの下町の江戸に拠点を構えたということのようだ

参考ホームページ

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Tokyo/Kasai/index.htm

http://www.pasonisan.com/review/0_trip_dell/11_0220kasaijou.html

http://yogokun.my.coocan.jp/tokyo/katusikaku.htm

http://blog.winbit.biz/2015/11/08/6579

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-397.html

https://ameblo.jp/napo-jou/entry-11593875731.html

https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11714347929.html

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/012tokyo/057kasai/kasai.html

〒125-0062 東京都葛飾
葛飾区
金町
常磐線
北三谷小
長門小
亀有
アリオ亀有
一之台中
ジョナサン
新宿小
警視庁亀有警察署
467
6
亀有中
グルメシティ 柴又店
修徳中学校/高
柴又帝釈天
上千葉砂原公園
東京都立葛飾野高
柴又
上千葉小
ライフ葛飾白鳥店
まいばすけっと 柴又1丁目店
京成高砂
新柴又
かつしか江戸川病院
北総線
お花茶屋
京成本線
高砂けやき学園
Google